

Ai研 NewsLetter No.3

相澤病院臨床研修センターニュース

2010年10月20日

記録的な猛暑が過ぎ去って、松本は秋の気配、というより冬に向かって季節が走り始めました。

9月25日に湘南鎌倉病院から Dr. Joel Branch を迎えて、Bedside Conference を行いました。意識障害の患者さん2名について、丁寧な病歴採取と身体所見の取り方、それらを基にした鑑別診断の組み立てについて、約3時間、英語で(流暢な日本語を混ぜて)討論しました。3回目ですので、Dr. Branch と研修医の間に、お互いに心地よい空気が形成されてきました。今後のますますの発展が期待されます。



2年目の研修医の方々にとっては、来年度以降の career path を決める時期が近づいています。先日 Physician Scientist, Why Not? というタイトルで研修医に講演する機会がありました。日本の医療の明日を担う皆さんが、信頼される physician として大きく羽ばたいて、scientist として世界に向かって発信するようになることを願って私見を提示しました。正直申して、私自身にとっても、改めて医師としての一生の研鑽を考える機会になりました。

スポーツの領域では、global に一流選手として活躍する日本人が増えたように思います。今年のノーベル賞は化学の領域で2人の日本人が受賞し、医学研究では iPS 細胞の山中先生にノーベル賞の期待が高まります。

研修医の方々も Be Ambitious!

Ai 研のスタッフ全員が応援しています。

今回は研修医の内御堂先生から嬉しいニュースが届いていますのでご覧下さい。

先月から研修医が中心となって英語勉強会が発足しました。

勉強会は週一回、主に USMLE: United States Medical Licensing Examination (米国医師国家試験)の模擬問題を、参加者全員でディスカッションしながら解いています。

相澤病院の臨床研修では臨床英語に触れる機会は限られているので、研修医が実際に英語圏で使われている英語に継続的に触れるために、このような勉強会を立ち上げました。将来臨床留学するしないにかかわらず英語というコミュニケーションツールを身につけておく

ことは、優れた医師としての土台作りに必須であると確信しております。

医師としての臨床経験を踏まえて USMLE の臨床問題に当たると、「今、目前にこの患者さんがいたらどうするか」と考えて、ただ答えを出すことにとどまらず、議論が白熱することもあります。

最近是指導医の先生方にも参加していただけるようになり、問題を解くことに加えて、英語の発音を直していただいたり、より深い知識を教えていただいたりと勉強会の幅が広がっています。

この勉強会を通じて医学英語に触れ、さらに将来臨床留学をめざす研修医が登場することも期待しています。

1 年目研修医 内御堂 亮

* * * * *

臨床研修センター 副センター長
相澤 徹